

第1回 環境大学・環境学習円卓会議
2011年9月15日

円卓会議での検討内容

環境大学・環境学習円卓会議

環境大学・環境大学円卓会議

主な検討課題

1. 「環境大学」の設置可能性検討
2. 環境教育と人材育成
3. 既存の環境塾、環境大学との融合

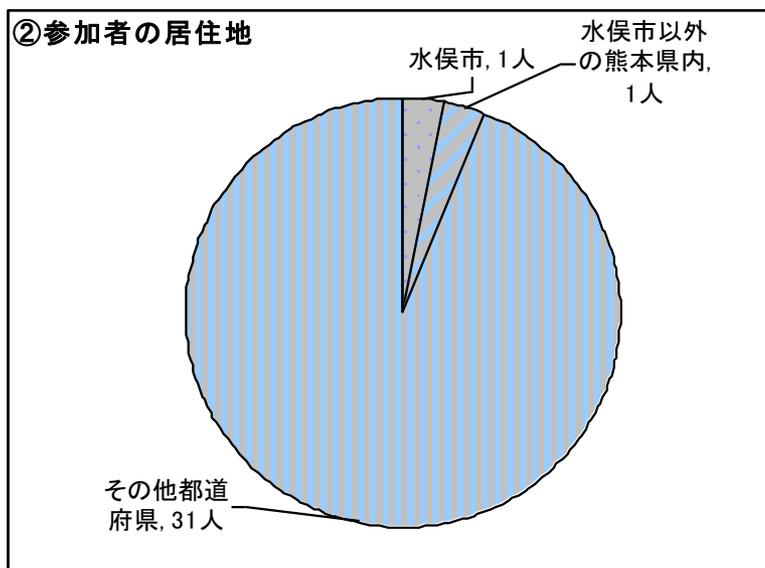
1. 環境大学・環境学習分野の現状と課題

環境大学・環境学習分野の現状と課題

- 水俣病の経験に基づき、我が国でも先駆けて環境まちづくりを市民協働で行い、市民に高い環境意識が共有されている。
- 「みなまた環境大学」などキャンパスのない大学で一定の成果を上げている。
- 水俣病、環境に関する官民の研究・教育施設が集積している。各施設間の情報共有や連携が課題である。



袋中学校のゴミ分別の取り組み



みなまた環境大学の参加者(平成20年度)



国立水俣病総合研究センター

2. 現状分析を踏まえた検討内容(案)

新たな教育・研究機関の在り方

- 大学等の教育・研究機関の誘致可能性、実現可能な運営形態、教育・研究にかかる新しい制度確立の実現方策などについて検討する。

例えば…水俣病資料館など既存の施設を有効活用した教育・研究機関の検討
既存の大学や研究機関との連携の検討、等

教育・研究コンテンツ(教育・研究内容)

- 水俣病の教訓や市民協働の環境への取組、水俣の歴史・風土など、水俣の強み・特徴を活用し、新たな教育・研究機関で取り扱うことがふさわしいコンテンツ(教育・研究内容)の案を作成する。

例えば…「みなまた環境大学」など既存の取り組みを発展させた取り組み、等

市民参加の仕組み

- 運営に市民が関わるができる仕組みについて検討する。

例えば…市民講師、シンポジウムなどイベント時におけるボランティアスタッフ、宿の提供、等

3. 参画する主なメンバー

市民・組織等(案)

- 県内大学関係者、環不知火プランニング、水俣病センター相思社、県環境センター、水俣自然学校、環境塾卒業生、市民公募

有識者

- 田中昭雄(熊本大学)
- 永松俊雄(崇城大学)

市担当課

- 企画課
 - 教育委員会、総合経済対策課、環境モデル都市推進課